

令和7年度「あおもり創造学」プランの名称及び実施概要等

No	学校名	プランの名称	実施概要等	連携する外部機関
1	青森高等学校	Infinintelligence Research Program	学年ごとに「交通」、「防災」、「伝統文化」などのコアアイテムを設定し、「グローバル」「健康と福祉」「教育・生活」「数理・情報」「環境・資源」の5つの研究エリアからアプローチしながら生徒の探究活動の深化を図る。また、海外の視点を通じて地域課題を客観的に見つめ、シンガポールやベトナムに赴き、現地の学生との協働学習を行う。	市役所、県庁、青森中央学院大学、青森大学、オカムラ食品、工藤パン 他
2	青森西高等学校	青森未来創造プロジェクト ～100年後に残したい青森の魅力～	【1学年】①～⑧の分科会に分かれて実施 ①「津軽塗」 ②「あおもり藍」 ③「こぎん刺し」:こぎん刺しの世界ブランド化に挑戦 ④「あおもりカシス」 ⑤「ねぶた」 ⑥「温泉文化」 ⑦「りんご」 ⑧「三内丸山遺跡」 【2学年】「青西観光大使」活動(修学旅行先で青森の魅力をPR)	津軽塗伝統工芸士会、あおもり藍産業、あおの森、あおもりカシスの会、江渡下ねぶた囃子会、青森の湯っこ協会、JAアオレン、三内丸山遺跡
3	青森東高等学校	E-pro 地域探究	将来の地域社会を形成していくリーダー的人材の育成を主眼に、地域課題について身近な自分の課題として捉え、主体的に探究していこうとする姿勢を醸成する。また、「E-pro 地域探究」を課題研究基礎として1年次で学び、2・3年次の課題研究へと発展させる。	県内各大学、青森県庁、NPO等
4	青森北高等学校	「あおもり創造学」KITAプロジェクト ～地域の課題解決に向けて～	1学年 自己理解・社会理解～探究の型の習得・活用～ 【Cycle1】<問題提起・整理> → <解決策立案> 【Cycle2】<問題提起・整理> → <活動計画書> 2学年 地域理解・進路研究～探究活動の実践～ 【Cycle3】<問題提起・整理> → <論文作成> ※各種成果発表やコンテスト応募に向けて研究成果をまとめる。 ※近隣小中学校等の児童生徒へ案内し研究成果を発表する。	県内博物館、研究機関、県内大学、県内学校、地域企業、地域団体 等
5	青森南高等学校	南高のバトン	白神山地での英語ガイド、SDGsをテーマとした探究型コンテストへの参加、本校生徒が先生役となる小・中学生向けの世界遺産検定教室の開催等の実績を基礎として、進路達成やキャリア形成に役立てることを目指す。さらに「南高」から「青森県」へ地域の魅力を発信し、県民愛の涵養を目指す。	青森市、青森市議会、県内高等教育機関、近隣町会・商店会等
6	青森中央高等学校	あおもり探究 - 地域活性化、魅力の再発見と創造 - ～みつめる・かかわる・とびだす～	青森市で暮らす「自分たち」として地域を探究し、さまざまな視点で再発見することで故郷を愛する心を育てるとともに、課題について考え、解決に向け実践することにより、実行力・協働力・探究力を育成する。 2年次 あおもり探究 困りごと解決～地域の課題～ 3年次 あおもり探究 ～自由なテーマで探究しよう～	青森中央学院大学、青森公立大学、青森市地域ねぶた振興協議会
7	弘前高等学校	「あおもり創造学」弘前高校バージョン ～地域の魅力・可能性を創出する力を培う～	1年次では、青森を拠点とする様々な分野で活躍する方や卒業生による講演を聞いたりワークショップを行い、地域の特色や課題について調べ、整理し分析する深い学びによって地課題や魅力を発見する取組を行う。その学びを土台にして、2年次では、さらに地域の視点からグローバルな視点へと視野を広げて探究活動をしていく。また、「弘高ねぶた」に関わる諸活動を通じて、地域に誇りを持ちつつグローバルな視点で諸課題を多角的・多面的に捉え、新たな価値を創造して各界でリーダーシップを発揮できる生徒を育成する。	弘前市、弘前大学、地域企業
8	弘前中央高等学校	「Sakura Time」	将来、青森県内を直接もしくは間接的に支えることができる人財となるために、生徒自らが居住地域や社会に目を向け、地域の課題について深く調べ、得られた情報や知識を横断的に整理・分析し、他者と協働することにより理解を深める力を育み、進路達成や生涯のキャリア形成に自ら進んで取り組むことができる生徒を育成する。	弘前市、弘前大学教育学部、地域企業、NPO
9	弘前南高等学校	南陵タイム「あおもり創造学」 ～身近なところからあおもりを考える～	1年次:探究活動入門(探究方法を学ぶ) 1学期・・・自分の住んでいる地域の様々な問題に目を向け、調査する 2学期・・・整理・分析・まとめ・発表・振り返り 3学期・・・結果を踏まえ、2年次の活動実践に向けた課題を検討・設定 2年次:探究活動実践(課題を深く探究する) 1学期・・・前年度設定した課題について情報収集を行う 2学期・・・整理・分析・まとめ・発表・振り返り ※弘前市内の連携協定等を締結している3大学から講師を招聘し講座を開催	青森県、弘前市、周辺町村、大学、地域企業など
10	八戸高等学校	八戸発見学 ～地元の「強み」から未来への挑戦～	①八戸地域の地理、歴史、フィールドワークの方法について学ぶ。 ②地域の企業や文化財を訪問し、見学や意見交換、情報収集。 ③フィールドワークをもとに調査内容を整理・分析し、考えをまとめる。 ④研究課題を設定し調査活動を行い、成果を発表する。 ⑤テーマ研究の内容を発表し、指導を仰ぐ。 ⑥持続可能な社会を実現するための研究を行う。	北日本造船株式会社、八戸通運株式会社、榎引八幡宮、種差観光協会
11	八戸東高等学校	はちのへ創造学 ～地元のこれからのを考える～	【普通科】「農林水産・医療福祉・工業技術・商業・教育・自然環境・芸術スポーツ・観光業」のテーマの中から一つ選び、同じテーマを選択した生徒同士による協議等や市・病院・企業等への取材や調査を通じ、各自の解決策の有効性と問題点を探る。 【表現科】文化や伝統の継承における取組について、各分野の専門家や講師を招いてのワークショップを開催し、学年ごとにテーマを決め、課題解決に向けて意見を出し合いながら、どのような表現方法を用いて発信していくか、専門家の助言を受けながら考える。また、表現科公演に向け、演劇、映像、舞踊、言語表現を通じて最も効果的な表現方法を協議しながら作品づくりに取り組み、発表を行う。	八戸学院大学、八戸市、八戸市民病院、八戸市商工会議所、市内民間企業、八戸工業大学、NPO法人

令和7年度「あおもり創造学」プランの名称及び実施概要等

No	学校名	プランの名称	実施概要等	連携する外部機関
12	八戸北高等学校	「あおもり創造学」in八北 ～きざしはしから見る八戸の未来～	①地域課題解決のための研究課題について調査する。 ②地域課題解決のための研究課題を設定する。 ③地域課題解決に関連する文献や先行研究調査により知識を深める。 ④フィールドワーク等で情報収集をし、解決策を考える。 ⑤リサーチクエストを再考し仮説を設定する。 ⑥研究手法を考察し計画書を作成する。 ⑦発表用資料を作成し、発表会等を行う。	八戸市、周辺市町村 地域連携部、地域企業、NPO
13	八戸西高等学校	「あおもり創造学」 ～八西から始まる地域課題解決ソリューション～	①地域の現状を捉える…地域課題について調査を行う。 ②地域の課題を捉える…調査に基づいて研究課題を設定する。 ③課題の解決を考える…生徒同士で協議する。取材したり講話を聴いたりして見聞を広める。 ④自分の考えをまとめる…発表用ポスターを作成し、発表会を行う。 ⑤活動を振り返る…自己評価、他者評価を実施する。 ⑥校外に情報発信…学校ホームページにポスターを掲載する。	八戸学院大学、八戸工業大学、八戸市商工会議所、各市町村地域振興課
14	木造高等学校	木造(きづくり)・人づくり・地域づくり ～「MAP(Mokko Asumiru Project)」～	つがる市及び近隣市町村の観光や文化遺産など、地域の課題を持続可能な開発目標に関連付けながら、課題解決に向けた仮説の検証活動、パネルディスカッション、アンケート調査や取材等を行いながら、チームで探究学習に取り組み、これからの社会に必要な国境を越えた地球規模の視野や草の根的な地域視点の大切さを身に付ける。	つがる市及び近隣市町村、つがる市役所、五所川原市役所、青森中央学院大学、青森大学、早稲田大学、地域企業
15	鱒ヶ沢高等学校	鱒ヶ沢の宝を未来へ！！ ～地域資源の探究と継承～	主に鱒ヶ沢町の発展的な地域づくりのために、あじがさわテキスト・観光ガイドブック・鱒ヶ沢町総合計画のデータ等の活用や、就業体験、インタビュー調査等の体験活動により、資源の魅力とその課題について発見し、鱒ヶ沢町の宝(自然や産業)を未来に継承するために必要な課題を解決しようと挑戦する生徒を育成する。	鱒ヶ沢町役場(商工観光課、農林水産課)、鱒ヶ沢町消防署、鱒ヶ沢町関係機関(農園経営者、漁業者・漁協、畜産業者、白神の森遊山道、建設業者 他)
16	五所川原高等学校	力行タイム	立佞武多の館の見学、ポスターセッション、探究講演会、フィールドワーク等を通して、地域の歴史や課題等を学び、地域の課題解決に一役買っていることを体験することで郷土愛を涵養する。また、市役所や地元企業等と協力しながら、地域の諸課題に取り組むとともに、地域の重点校として西北五地区コンソーシアムを主催し、近隣高校と合同で発表会を行う。	五所川原市、地域企業、大学、研究機関など
17	黒石高等学校	地域の魅力の種を育てる ～地域探究から見つめる黒石市～	複数のコースに分かれて黒石市内外の施設見学やフィールドワークを行い、黒石市の魅力や個々のテーマに関連する黒石市内外の取り組みを知り、比較検証することで、その違いについて理解を深める。また、これらのプロセスを経て、最終的に黒石市の長、抱える課題とその解決方法、そして効果的に魅力を発信する方法を探り、黒石の街を活性化するためにできることを高校生の視点から探っていく。	黒石市、青森県、地域企業 他
18	浪岡高等学校	「あおもり創造学」 空き缶でつながる、浪高と地域と循環型社会	循環型社会の形成に向けて、地域への貢献意欲を高め、持続可能な青森県を支えることができる人材となるために、地域の風物詩として注目を集める「空き缶壁画」に係る取組をとおして、地域課題解決に関連する話を聞いたり、フィールドワーク等により青森市の循環型社会に関する課題について調べ、整理・分析し、本校と地域とのつながりを認識するとともに、青森市や関係機関の協力を得ながら学びを深める。	青森市環境部清掃管理課、地域企業、地域住民
19	野辺地高等学校	「野高コンパス」 持続可能な社会の形成者としての意識の醸成と総合的探究能力の育成	①避難所運営訓練Ⅰ…体育館でテントや段ボールベッド、簡易トイレの設置訓練 ②避難所運営訓練Ⅱ…避難所運営ゲーム(HUG)を用いた運営訓練 ≪1学年≫ ③地域研究…のへじ検定受験、野辺地町の歴史や文化を学ぶ校外学習 ④探究入門…探究のプロセスについて学習 ≪2学年≫ ⑤探究入門…探究のプロセスについて学習 ⑥地域探究…地域の課題を認識し、解決方法を考え、グループで発表 ≪3学年≫ ⑦地域活性化探究…地域の課題解決案を一人一人が考案し、発表	野辺地町、野辺地町商工会、地域企業、NPO 等
20	七戸高等学校	柏葉から考える青森と私の未来	1年次は、通学地域や居住地域と結び付けながら地域課題を自分事として明確化し、地域間比較を行いながら情報収集・整理、分析力を高める。2・3年次は、生徒個々が興味関心の高い分野別ゼミの内容から、フィールドワークや体験活動等を積極的に取り入れ、探究のサイクルを繰り返し、主体的に学び続ける態度を身に付けさせる。更にゼミ内外でのブレインストーミングを定期的実施し、確実にフィードバックすることで協働力、コミュニケーション力及びプレゼンテーション能力を高めさせたい。	七戸町役場、任意団体ナナラボ、県内上級学校、七戸町・十和田市近隣企業、地域おこし協力隊、アーカイブ七戸 他
21	百石高等学校	総合的な探究の時間／課題研究	[普通科:総合的な探究の時間] 1年「興味関心を広げる」 2年「テーマを探究する」 3年「進路につなげる」 [食物調理科:課題研究] 1年「生活産業基礎」、2年「生活産業情報」、専門科目等での学習を活かし、これまでに身に付けた知識や技術を地域に還元するため、生活産業に関する課題を発見し、解決策を探る。課題研究の成果は、食物調理科の発表会で発表する。	おいらせ町、地域企業、八戸学院大学、(株)a.school、一般社団法人わのまち等
22	六ヶ所高等学校	「あおもり創造学」～ROHS(ロハス) [ROkkasho High School & Rokkasho Our Heritage Studies] ～私たちの六ヶ所を受け継ごうプロジェクト2025～	①探究テーマの設定…六ヶ所村周辺地域に関連のある探究テーマを設定 ②地域の産業調査…六ヶ所村周辺地域の企業・産業について事前に調査 ③村内企業・産業研究会…地域の企業・産業に関連する講話を聞き、知識を深める ④探究テーマの調査…生徒同士で協議し、設定したテーマを調査 ⑤探究テーマの実地調査…実地調査の計画を立て取材等を実施し、整理・分析 ⑥探究テーマの実地調査のまとめ…成果発表用スライドと動画を作成 ⑦調査結果のまとめⅠ…成果発表会を行い、発表資料をまとめた記録集を作成 ⑧調査結果のまとめⅡ…アンケート及びプログラム評価を実施 ⑨総括…学校ホームページ等に成果発表会動画や資料を掲載	六ヶ所村、六ヶ所村産業協議会、地域企業、各協同組合

令和7年度「あおもり創造学」プランの名称及び実施概要等

No	学校名	プランの名称	実施概要等	連携する外部機関
23	三本木高等学校	SANKO探究 ～青森県立三本木高校・地域探究プログラム～	①地域課題研究に取り組んでいる地元大学から講師を呼び、地域研究の進め方についてガイダンス。 ②地域の協力企業に依頼し、講演会・ワークショップを実施。また、実際に現地を訪れ実情を調べ、魅力発見。 ③地域の魅力の維持・拡大を阻害するような課題について考察し、一人一課題を設定。 ④アイデア企画書を作成。外部講師とのワークショップにより、企画書を再作成。 ⑤グループで協議しながら、プレゼンテーションの発表準備。 ⑥外部講師を招き、合同発表会を行い、評価を得る。校内外・海外へ研究の成果を発信。 ⑦一人一課題についてレポートを作成し、提出。	十和田県入道観光機構、日本風力開発(株)、サキコホールディングス、林野庁東北森林管理局、三八上北森林管理課、イオスエンジニアリング&サービス、八戸工業大学、弘前大学、青森大学、東北大学、県南環境保全センター(株)、ATV青森テレビ、(株)福藤組、青森県エネルギー総合対策局エネルギー開発振興課、十和田市立中央病院、東京海上日動火災(株)、台湾台北市大理高級中学校、ATOM Works(株)、早稲田大学NPO法人SENT台湾、青森県産業技術センター野菜研究所、(株)ピーコース、(株)パリュージフト
24	三沢高等学校	「あおもり創造学」 ～モスプロでみさわを輝かせよう～	①地域課題解決学習の進め方について、大学教授等の各研究地域の専門家を招き、現地学習会を実施すると共に、現地での調査研究の実習を行う。 ②研究テーマについての検討会及び研究テーマ別のミニ学習会を実施する。 ③地域に住む方々、三沢市に在住する外国の方々などにインタビューやアンケート調査を行い、地域の現状を把握する。 ④現状から改善策を提案し、地域の方々と検討を行う。 ⑤成果について報告会を実施する。HP等で情報を発信する。 ⑥調査・報告内容についてデータベース化し、次年度以降の探究活動につなげる。	八戸学院大学、八戸工業大学、三沢市役所(三沢市政策部政策調整課、観光課、健康福祉部、教育委員会ほか)、三沢市商工会、三沢空港ターミナル(株)、青い森鉄道、青森屋、ホテルルートイン三沢、小坂工務店、弘前大学、青森大学
25	田名部高等学校	「探究理解」 ～あおもり創造学～	【1年次】①課題研究の発表を見て課題研究に関心を持つ。②地域課題に関する知識を深める。③生徒同士で協議し、どのような地域課題があるのかを調査・整理・分析をする。 ④調査した内容と提言をまとめ、発表会を行う。 【2年次】①課題研究の発表を見て課題を再認識し、現状について調べる。②リサーチエッセイと仮説を立てる。③仮説の検証のために調査・整理・分析をする。④発表会を行う。⑤発表会で得たフィードバックをもとに、仮説を再検証する。 【SDG's プロジェクトチーム】SDGsの概要やリサイクルの意義等について学び、自分たちのできる社会貢献について考え、行動する。	むつ市役所各課、むつ市官公庁・公的機関(下北地域広域行政事務組合消防本部、教育委員会、むつ総合病院等)、下北管内小中高等学校、下北管内企業、県内大学(弘前大学・青森大学・八戸学院大学)・NPO法人等
26	大湊高等学校	「あおもり創造学」下北HEROES ～地域を活かす方法を考えよう～	①地域のいいところ・課題を考え、課題の原因を探る。②地域課題の解決方法を考える。③地域課題について、地域企業等の取組についてインタビューし、自分たちの案に対するアドバイスをいただく。④企業インタビューをもとに、解決案を具体化する。⑤地域課題と企業の取組、解決方法の提案を発表する。⑥下北HEROESから見た地域課題をもとに、リサーチエッセイを実施し、仮説を立てて検証する。 ⑦課題研究について中間発表を行い、フィードバックをもらう。⑧中間発表をもとに、課題研究を進める。⑨課題研究について、校内外に向けて発表を行う。⑩課題研究について、報告書にまとめる。⑪下北のジオパークについて学び、地域の魅力発信等を考える。	地域企業、市役所等
27	大間高等学校	「あおもり創造学」下北の底デカラ発見隊 ～北通り3町村編～	①地域の現状や取り組みについて、地域の方々の講話や現地の見学などを通して知識を深める。 ②グループごとに研究課題を設定し、地域課題解決に向けた情報発信・解決策の考案を行う。 ③地域や関係各所と連携し、考案した解決策の実現に向けた活動を行う。 ④これまでの活動をスライドにまとめ発表会を行う。 ⑤プログラム評価及びアンケートを行う。	大間町、風間浦村、佐井村、大学、地域企業等
28	三戸高等学校	『三戸みらいキャンパス』 ～地域の、そして自分自身の「みらい」を「三戸郡」というキャンパスで描こう～	①三戸町教育委員会の協力のもと、クリエイターとともに地域課題の解決策を考える。 ②地域活性化活動を計画し、連携してくれる地域の企業や団体を探す。 ③週末や長期休みなどを利用して地域と連携した地域活性化活動を行う。 ④ICT機器を活用し、プレゼンテーションを作成する。 ⑤三戸町まちづくり課と地域の高等教育機関から審査員を招き、生徒が実際にに行った地域活性化活動について発表し、活動全体について評価をしてもらう。 ⑥ICT機器を活用し、アンケート及びプログラムについて評価を行う。 ⑦地域の高等教育機関や企業を訪問することで、地域の魅力を再発見する。 ⑧県主催の発表会、NPO法人カタリバ主催マイプロジェクトアワード、八戸学院大学主催八戸SDGsフォーラムなどで発表を行い、外部から評価してもらう。	町役場、商工会、観光協会、地域住民、クリエイター等
29	五所川原農林高等学校	「地域 農業 SDGs」 ～課題解決へGO農～	【食品科学科】・もみじイチゴの活用法の研究 ・米粉を利用した加工品の研究 ・菊いもを利用した加工品の研究 【環境土木科】・バックホーシミュレーターの活用と実践 ・みどりの食料システム戦略に対応した有機農業の研究 ・ビオトープにおける生物多様性保全活動 【森林科学科】・青森県産漆の生産へ向けた研究 【生物生産科】・農業におけるSDGsへ向けた取り組み ・りんご高密度植栽培の実践と応用	弘前大学農学生命科学部、岩手大学農学部、小西美術工芸社、鱒ヶ沢町役場、内水面研究所、齋藤建設、弘前工業研究所
30	柏木農業高等学校	わたしたちのひらかわ魅力発信プロジェクト ～オール柏農で地域課題を解決しよう～	①「平川圏域の産業と郷土文化がわかる」(1学年) 農林水産業・関連産業に求められる知識・技術の習得、地域農家での農業体験学習、郷土文化学習(平川ねぶた祭り参加)、レポート作成 ②「平川圏域の魅力(農林水産業・関連産業・郷土文化)とつながる」(2学年) 郷土文化学習(ねぶた制作および平川ねぶた祭り参加)、3学科の特徴を生かした地域課題の発掘、課題解決に向けた仮説の立案、計画作成、実験(試験)実施、仮説検証とまとめ、レポート作成、校内発表 ③「平川圏域の魅力(農林水産業・関連産業・郷土文化)を発信する」(3学年) 郷土文化学習(ねぶた制作および平川ねぶた祭り参加)、前年度の活動検証、4学科の特徴を生かした地域課題解決活動、計画作成、地域企業や自治体との連携、実験(試験)実施、仮説検証とまとめ、レポート作成、校内および外部発表	青森県農林水産部、青森県産業技術センター農林総合研究所及びりんご研究所、平川市経済部農林課、弘前大学・大学院、青森大学、農業経営者(本校OB、弘果弘前中央青果棟、樹アグリセンター、タグポート棟)、農業関連産業(ねみちのくくボタ等)、地域団体(平川市密植栽培研究会)等
31	三本木農業恵拓高等学校	三農課題研究+総合的な探究の時間	①調査・研究する内容に関連した事項について、企業、地元自治体、地元NPO等から情報収集(例:普通科・・・十和田市役所) ②先行研究、インターネット、新聞、文献、実地調査等により収集した情報から課題設定 ③課題解決に向けた取組を実践。実践に当たっては、企業、地元自治体等と共同実践(例:植物科学科・・・十和田きみからスリッパ生産組合) ④タブレット等を活用して発表用スライドを作成 ⑤三農祭(文化祭)の学科展において研究内容を展示 ⑥1学年全学科による発表会を実施するほか、全校の課題研究発表会(プロジェクトオブザイヤー)やポスター発表会(ポスターセッションラングリ)を実施	十和田市民生部、太子食品、そばCafe福、清水建設、MOVED、ピーコース、パリュージフト、十和田きみからスリッパ生産組合、十和田むらさき保存研究会、八戸学院大学
32	名久井農業高等学校	持続可能な地域農業を目指して ～地域農業の未来を切り拓く農業高校生として～	①文献調査・・・農業と環境、課題研究 ・先行研究や地域課題、最新技術などの情報を活字から集める。 ・集めた情報の中から、自身の力(本校の研究環境含む)で解決に取り組めるものとそうでないものに整理。 ・年度後半に向けて自分の興味関心の分野を絞っていく。 ②施設見学(1学年)・・・総合実習 ・八戸中央卸売市場、八戸市農業経営振興センターを見学。 ・最新の研究や技術の情報を掴む。 ・地域農業における課題を知る。 ③施設見学(2学年)・・・総合実習 ・八戸学院大学と八戸工業大学のオープンキャンパス等を利用し、地域課題や取り組みについて情報交換。 ・地域課題に対する取り組みについて学び、研究活動に取り入れる。	八戸市農業経営振興センター、八戸中央卸売市場、八戸学院大学、八戸工業大学、NPO学びどき、南部町役場(学務課・交流推進課)、NPO青森なんぶの達者村、地域農家
33	青森工業高等学校	「青工 × あおもり創造学」 ～ものづくりで地域とつながる/工業技術の向上と継承～	<1>地域・異校種とのものづくり交流 青森県立青森第二高等養護学校と本校の両校で、ものづくり交流会を実施する。 ①両校の魅力を調査研究(FW)、各学科の特色を取り入れた企画課題の設定 ②課題と製作物との適合性を確認、研究内容に関係する外部団体の検索と協力を依頼 ③情報収集⇔協議⇔工程管理⇔製作(WS)⇔実験⇔検証の繰り返し、ニーズの適合性と質の向上 ④情報公開・発表・振り返り成果の公表(発表会(校内外)、考察と評価(アンケート)) <2>ものづくりコンテスト各種部門の優勝チャレンジ 青森県大会各部門の優勝を目標に、各学科が日々試行錯誤しながら鍛錬する。	青森県立青森第二高等養護学校、地域企業等

令和7年度「あおもり創造学」プランの名称及び実施概要等

No	学校名	プランの名称	実施概要等	連携する外部機関
34	弘前工業高等学校	「あおもり創造学」 ～地域に愛される工業人を目指して～	【2学年】地域の工場・施設・現場への学科ごとの見学(機械科、電子科、情報技術科、建築科、土木科)、地域の企業(電気工事関連の企業)でのインターンシップ(電気科) 【3学年】1年目の活動・学習を踏まえた課題研究(ものづくりや技術・技能の研究) 【各学科】 機械科:機械加工等 電気科:電気機器製作、電気工事技能の向上等 電子科:電子機器製作、電子機器組立技能の向上等 情報技術科:プログラミングデバイス機器の製作等 建築科:建築模型制作等 土木科:ものづくりコンテストに向けた測量技術の向上等	地域企業等
35	八戸工業高等学校	青森ファンづくりプロジェクト ～北東北最大の工業地帯とエネルギー施設を知る・学ぶ～	①地域の課題を知る…青森県の課題について確認する。 ②地域の企業を知る…県内企業の高い専門性と社会貢献度を知る。 ③地域の人財を知る…地域の熟練技能者や技術者の高い専門性と社会貢献度を知る。 ④地域の探究学習…地域の特色について課題研究を行う。 ⑤あおもり創造学振り返り…事後アンケート実施及びプログラム評価を行う。 ⑥あおもり創造学まとめ…学習成果の発表や情報発信を行う。	八戸市商工労働まちづくり部、八戸市総合政策部、地域専門機関・外部団体(青森県職業能力開発協会ほか)、デーリー東北新聞社、RABラジオ
36	五所川原工科高等学校	課題探究in五所工 ～地域の課題解決へ向けて～	①探究活動・調査方法について学ぶ ②グループで地域課題を解決するための探究課題を設定 ③課題解決に必要な情報を収集・整理・分析 ④課題解決策を考案・実現 ⑤発表用スライドを作成し発表 ⑥アンケート及び評価を行い、学校ホームページに活動の様子を掲載 ⑦レポートを作成	弘前大学、職業能力開発大学校、地域企業
37	十和田工業高等学校	地域産業の未来づくりに貢献！ ものづくり、ひとづくり 育成プラン	①地元へのアピール…地域自治体と連携しながら、地域の最大行事「十和田市秋祭り」を盛り上げるために、第1学年、第2学年全員でパレードに参加し、オリジナルグッズの配布及び学校のPR。 ②地域との積極的な関わり…ものづくりを通し、科学と工業の面白さ・大切さをPR。また、小学生プログラミング教室を開催し、AIやChatGPTといった最先端技術の一端を感じてもらう。 ③高校生ものづくりコンテストへの挑戦…「高校生ものづくりコンテスト」への挑戦を通し、高度な技術を身に付ける。目標は全国1位。	十和田商工会議所総務課、管内小学校
38	むつ工業高等学校	むつエプロジェクト ～地域とともに～	①地域の課題や要望などを調査(地域の有識者やインターネット、書籍等を活用) ②地域企業等と連携したものづくり活動 ③地域課題解決にかかわる講演会を実施(市役所や地元企業から講師を招いて講演会を開催) ④実際に現地に出向き、資料収集や調査活動(フィールドワークを行い、タブレット等を活用し記録) ⑤学科内、校内発表会を実施 ⑥成果の発信を行う。情報発信及びアンケート実施(学校ホームページ内の創造学ページから成果を発信)	むつ市防災安全課、下北ジオパーク推進事務局、八戸工業大学等
39	八戸水産高等学校	八水マリンタイム ～「海を知る 地域を知る 創造する」～	①生徒自身の居住地域に関する地域課題について調査 ②地域課題解決に関連する話を聞くなど知識を深める ※実習船「青森丸」体験航海で寄港地研修として、気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館(旧気仙沼向洋高校)見学 ③地域課題解決のための研究課題を設定 ④地域資源活用のためにⅡ-生徒間で協議し、整理・分析 ⑤発表用スライドと動画を作成し発表会等を開催 ⑥学校ホームページ等に発表会資料を掲載	八戸市水産事務所、八戸学院大学、八戸工業大学、種差インフォメーションセンター等
40	青森商業高等学校	「あおもり創造学」青商生プロデュース！ 地域活性化プロジェクト	地域を「学びのフィールド」として実践的な活動に取り組む中で、郷土を愛する心を育むとともに、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力及びICT活用能力等、地域の活性化に貢献できる資質・能力を身に付けた人財を育成。 3学年の課題研究において、フィールド調査による地域の現状分析及び課題の洗い出しを行い、地域企業等と連携した課題解決型学習を通して、地域経済の活性化につながる新たなビジネスモデルの創出等を行う。	青森大学、青森中央学院大学、北洋硝子(株)、(有)松栄堂、企業組合あおもり万華堂、(株)Revive等
41	弘前実業高等学校	各科の特色を活かした「地域課題の掘り起こしと解決法の提案」(商・家・体のチャレンジ)	各学科の専門性をさらに高め、地域の諸課題に深く取り組み、地域産業との関わりや学習内容の地域との関わりに関する学びや理解促進を図るため、校内体制を構築し、産官学連携により取り組む。 各科の特色ある専門的見地から県内の現状や様々な資源(人・もの)に触れ、体験することで郷土に対する愛着や誇り、地域への貢献意欲の醸成を図りながら将来、県内産業を支えることができる人材育成を目指す。	弘前市役所、研究機関、地域企業等
42	八戸商業高等学校	「あおもり創造学」八商発！ 郷土愛～地域と共に～	①外部講師による講演やフィールドワークにより、地域の現状を把握 ②ワークショップを通して、地域の課題について考える ③研究内容の決定・調査・研究 ④学校ホームページで研究成果の情報を発信 ⑤地域コンソーシアムの合同発表会に参加して成果を共有	八戸市政策推進課、(株)バリューシフト(一般社団法人わのまち)、(株)アイティーワーク等
43	三沢商業高等学校	地域ビジネスプランの創造と挑戦 ～三沢市周辺地区の魅力大発信～	調査・研究の基礎となる「探究力」について学ぶ。 県内の大学や地元自治体、地元の起業家や企業の講演や体験活動を通して、本校が所在する三沢市や生徒の居住地域の課題を発見し、研究テーマを設定する力を養うとともに、学科・科目との関連を考えながら調査・研究・分析を行い、将来青森県を担う人財となるよう、進路達成やキャリア形成に意欲的に取り組む。	三沢市役所政策調整課、地域企業、地方自治体等外部機関、青森中央学院大学、八戸工業大学
44	北斗高等学校(定時制)	「あおもり創造学」 ～社会人としてしっかりと生きていく力を育む～	①中間年次1年目 ・スクールソーシャルワーカーからの情報収集 ・不登校経験の子を持つ本校保護者による講話 ・不登校に関するテーマ(課題)の設定 ・新聞記者の講話⇒新聞制作 ・成果物(新聞一面)の発表会 ②中間年次2年目 ・職業理解(職業調べ)のシート作成 ・職業人講話 ・成果発表	青森県交通・地域社会部

令和7年度「あおもり創造学」プランの名称及び実施概要等

No	学校名	プランの名称	実施概要等	連携する外部機関
45	八戸中央高等学校 (定時制)	「つなげるチカラBASIC」	① オリエンテーション ② 自己啓発・自分とつながる ③ 地域調査・地域とつながる ④ 課題の設定 ⑤ 情報収集・情報分析 ⑥ 企業研究・消費者研究 ⑦ 校内生徒生活体験発表会・県生徒生活体験発表会 ⑧ 課題解決に向けて(情報の整理・分析・まとめ・発表)	高等教育機関(大学・短大・専門学校など)、企業、外部関係機関、NPO法人 等
46	五所川原高等学校 (定時制)	地域探究 ～自己と地域の関わり～	①小テーマとして「ひとり親家庭」「依存症」「農業の後継者問題」の3つを設定。「ひとり親家庭」「依存症」については、担当教員による解説と、ゲストティーチャーによる講義・ワーク、「農業の後継者問題」については、担当教員による解説とフィールドワークを実施。 ②生徒の関心や経験に基づいて各自の探究テーマを設定。 ③書籍、新聞、インターネット、インタビュー調査などにより情報収集。 ④グラフ化や思考ツールの活用などにより、情報の整理・分析。 ⑤探究活動の成果をポスターにまとめ、クラス内で発表。その後、タブレット等を活用して振り返りを実施。 ⑥学校ホームページに発表会の様子が分かる写真等を掲載。	五所川原市経済部農林政策課、NPO法人ギャンブル依存症家族の会青森、弘前市母子寡婦福祉会、青森県母子寡婦福祉連合会
47	尾上総合高等学校 (定時制)	「あおもり創造学」地域の魅力再発見 ～地域とともに目指す自己実現～	①田舎館村田んぼアートの田植え・稲刈りに参加 ②職業人インタビュー・農作業体験・インターンシップを実施 ③②の活動内容をまとめ、校内で発表を行うとともに文化祭で掲示 ④社会人ライフプラン講話 ⑤類似課題を設定した生徒同士で班を作成し、研究課題を設定 ⑥設定した課題について情報の収集、整理・分析 ⑦各班によるフィールドワーク ⑧研究内容をまとめ、発表会を実施	青森県教育支援プラットフォーム、大鰐町民生委員、あおもりCAPの会、Asobo!Hirakawa、田舎館村役場、地域企業
48	三沢高等学校 (定時制)	わくわくハイスクール！ ～地域産業や郷土の文化・生活を学んで伝える～	A 産業を学ぶ:市の出前講座(観光、特産品、ふるさと名物) B 生活を学ぶ:市の出前講座(福祉サービス、地域活性化) C 観光地を知る:市内探究活動(観光地フィールドワーク) D 料理を学ぶ:外部講師による料理講習会(郷土料理、世界の料理) E SBPを学ぶ:外部講師によるSBP関連ワークショップ F 情報を発信:「三沢の魅力」「あおもり創造学の成果」 I ちらし・看板作成⇒学校文化祭、地域イベントで配布・掲示 II HP掲載⇒学校、関連する外部団体に依頼 III 全国的なプロジェクト・コンテストに参加 ①「全国高校生1億円プロジェクト」(鱒ヶ沢町) ②「全国SBP交流フェア」(三重県伊勢市) ③「過程重視探究発表会(定時制全国大会)」 ④「三沢市協働のまちづくり市民提案事業」(三沢市)	三沢市役所(広報広聴課・観光物産課・生活福祉課等)、十和田NPO法人子どもセンター・ハピたの、一般社団法人未来の大人応援プロジェクト、地域企業(印刷業、看板業、飲食店等)
49	田名部高等学校 (定時制)	「あおもり創造学」まさかりの魅力を発見 ～下北を持続可能な社会に～	①地域探究活動オリエンテーション ②かさまい先輩(下北地区の方々とのワークショップ形式の講演会) ③下北ジオパーク、産業、観光についての講演会 ④下北ジオパーク(恐山周辺)を探索・訪問(写真撮影、特産物) ⑤下北の上級学校を訪問、大学の講義体験(地域学を学ぶ) ⑥郷土料理を知る(調理実習) ⑦ICT機器でのまとめ活動と発表準備 ⑧研究発表	下北ジオパーク推進協議会(むつ市役所ジオパーク推進課、青森大学むつキャンパス、八戸学院大学むつキャンパス、しもきたジオパークガイドの会、むつ市むつ食生活改善推進委員会)
50	北斗高等学校 (通信制)	「あおもり創造学」 ～あなたにできる地域貢献～	①地域課題を探る…地域課題に関連する話を聞き、知識を深める。 地域課題解決等に取り組んでいる団体の代表者などを講師として招き、講演会又はワークショップを実施。 ②地域課題解決のために…自分の興味や経験を活かした地域貢献の実践について考え、提示する。 自分が地域のためにやってみたいことをワークシートに記入し、整理・分析。	青森明の星短期大学
51	八戸中央高等学校 (通信制)	郷土についてより深く知る	青森県の自然・産業・文化等について、インターネットやフィールドワーク等により調査し、レポートにまとめる。また、各自の住む市町村の料理・伝統工芸・文化等についても調査し、レポートにまとめる。われわれが居住する青森県の魅力を、多方面から、また何気ない事物から見いだす。 ①青森県の自然・産業・文化等について調べ、レポートを作成する。 ②各自の住む市町村の料理・伝統工芸・文化等についても調査し、レポートにまとめる。	自治体、大学、企業、団体 等
52	尾上総合高等学校 (通信制)	「O ₂ プロジェクト」(オーツープロジェクト)	地元のイベントである「田んぼアート」の田植え・稲刈りに参加する。また、「田舎館村埋蔵文化財センター・博物館」の見学をとおして歴史や産業について学び、地元の歴史や伝統、特産品等に興味・関心を持ち、行事への参加や地元で活躍する方々との触れあいをとおして地元の魅力を発見し、郷土愛を育む。	田舎館村企画観光課、田舎館村埋蔵文化財センター・博物館